

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム・椋内

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200202		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・椋内		
所在地	岩手県宮古市田老字西向山119-16		
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成28年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390200202-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390200202-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28 年 2 月 26 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、「ひとりの心を見つめるケア」を方針とし、入居者様ひとりひとりの個性や生活を尊重する支援を目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの生活歴や環境を大切に寄り添うことを運営の方針にしており、特に得意なことや趣味を活かし、張り合いのある生活になるよう支援している。利用者は、自分の居場所を得たようにのびのびとしている感じを受け、表情も明るい。同じ法人のグループホームで複数の職員が一人の利用者を担当するシステムによりケアに効果を上げていることから、来年度は同じシステムを取り入れていきたいとしている。仮設住宅の代表者に運営推進会議のメンバーに入ってもらい、昨年はバーベキュー大会を開き、10数名の方に参加いただいた。来年度は、地域の小中学校や子供会との交流を本格的に進めたいとしている。利用者の生き甲斐ある暮らしの支援とともに地域との繋がりに力を入れ大切にしている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりの心を見つめるケア」を理念に9名の入居者の個々に合わせた対応をしている。	理念の実践に向け、介護で最も必要なことを話し合い、共通認識を持って支援に当たっている。特に生き甲斐を持ってもらうため、本人や家族から昔からの趣味や好きだったことを確認し、それを生かせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	6月：国道沿いにある花壇の整理などの地域行事に参加し、交流した。 10月：地域交流会を開催し、バーベキューやゲームなどをして盛り上がった。	利用者、職員が地域自治会の清掃や花壇の整備に参加している。仮設住宅と昨年バーベキュー大会を楽しんだ。現在、小中学校に声をかけ、来年度からの相互交流を進めている。子ども会も、行事に招待予定である。	仮設住宅との交流が縮小されるなか、運営推進会議に小、中学校、高校の先生方に加わっていただいている。利用者と生徒達との交流を工夫しながら進めることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くに仮設住宅等があり、集会所を通して日頃の介護のことや相談などが有る場合には、遠慮なくホームに来てもらうよう呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の方々、入居者ご家族、行政の担当の方を交えて、日頃の外部からの視点や意見を伺い、また事業所からの要望も細かく出し合っている。	自治会々長、仮設住宅代表、民生委員、小、中、高校、警察、消防など多様なメンバーの参加があり、運営に協力いただいている。ホームの存在と役割について理解をいただき、一層の支援と協力を得たいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議や事業所でわからないことがあれば、すぐに連絡を取り関係を築いている。	市には、出来るだけ当所から出掛けるようにしており、介護保険、成年後見人制度、生活保護等多岐にわたり情報交換をしている。またノロウィルス等の感染症対策にも的確な助言を貰うなどよき連携関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束において、職員の認識とスキルアップを外部研修や月に1回の会議で検討するようにしている。 委員会の設立も行い、継続している。	職員で「スピーチロック委員会」をつくり、お互いが言葉による拘束場面に気付いた時は、意見箱に入れてもらい、委員会主導で話し合い問題点を共有している。管理者は、場面により自ら気付いてもらうよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本となる虐待の認識や入居者の個々の不快に対して常に事前に考慮する。 内部研修にてスピーチロックについて勉強し、委員会を設立。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部の研修に参加し、研修内容で得た知識を社内会議にて報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居して頂く前に何度か面談や相談をし、ご本人や関わるご家族にできるだけ安心感を持ってもらえるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人の趣味や好きな食事を教えていただきながら、日常生活をより楽しく過ごしていただけるよう努力している。	利用者から食事や外出について希望が出される。家族の来所は少なめだが、電話等で要望や意見を確認している。家族との意思疎通を進めるため、利用者の生活の様子をお便りの形で発信することも検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や意見は、細かく聞き取るようにしており、常に代表者は話しやすいよう努力している。	職員会議や申し送りの際に、職員から意見が出される。利用者毎に担当者を決めているが、姉妹グループホームのケアシステムで効果が出ており、来年度から同じシステムにすることを職員と話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査は、代表者の視点のみならず、日頃の職員とのコミュニケーションからも職場の様子を把握するよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、常にスーパーバイザーとしての姿勢を心がけているとともに、職員同士の馴れ合いまでいかない交流を大事にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流やイベント(運動会など)の協働を図りながら、情報交換をするよう心がけている。 協会の会議の場としても、ホームを使用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、環境に慣れて安心できるまで、各職員が関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで常に要望等がないか、こちら側から聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の身体状況、生活環境等を把握しそれに伴ったプランを立てて実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員からも入居者様に役割を持って頂けるように声をかけてみたり、お互いが支えあえるような環境を目指して活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会にいらしたときには、ホームでの様子を報告したり、必要な物などを用意してもらっている。面会等で、ご本人も安心して喜んでいる。 毎月、担当者がお手紙もご家族に出して、様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親類の写真を居室に飾ったり、会話の中でご家族の話を聞いてみたりすることで、関係性を忘れることがないよう努めている。	利用者の生活歴を大切に、趣味を活かす支援をしている。漁師であった人と海釣りに行き、本人が話題にする場所に寄り道したりしている。買い物に行くスーパーや量販店も馴染みになり、大切な場所になりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子の観察を行い、気の合う入居者同士の席の配置を行い、支えあいながら過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者を介して、社会やご家族との交流を図り、相談があった時には、快く対応するよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者の言葉の意味を考え、行動の理由を多方面に考慮するように心がけている。 また、好きな食べ物や欲しいものを聞き一緒に買い物に出かけたり、どのように暮らしたいか等聞くようにしている。	日常的に会話を続けながら利用者が何を思い、何を望んでいるかを把握するよう努めている。買い物の希望が多く、欲しいものを一緒に買いに行くことで職員と一体感が出て、一層本音を聴くことが出来、介護計画に反映されることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔から使っている物や衣類を現在も使っている。趣味などを聞くことで、自宅での習慣を継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の生活リズム、習慣を把握しニーズに対応できるよう予見できるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画とともに日々変化する入居者の状態を職員全員が把握できるよう、日誌やコミュニケーションにより対応している。	計画作成担当者のアセスメントにより計画を作成し、家族と話し合い決定する。担当者は毎月のモニタリングをもとに3か月毎計画の見直しを行い、見直しが必要な場合は、本人、家族に同意を得て計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者による日々の記録のほか、日誌による微細な情報の記録・伝達に努めている。会議では、担当者から実践してほしいことを確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の入居者の習慣・体調等9名それぞれに合わせたケアを行っている。 訪問看護との連携も柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物へ出かけ、カートを押したり、食べたい食材を選んで頂き楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院が必要な場合には、ご家族と連絡を取り合い、対応してもらう。その場合も、通院結果の報告をお願いしている。職員の付添い場合は、結果をこちらから報告する。訪問看護との連携も行っている。	各科とも以前からのかかりつけ医で、家族同行が基本だが、最近は職員の同行が増えている。受診時は体調記録票等を持参し、結果は家族に知らせて適切な受診支援をしている。訪問看護師の週2回訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問してもらっている。体調記録票に情報や気づきを記入した書類を確認してもらい、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院になった場合には、ご家族とドクターを交え話し合い、退院後も安心して過ごせるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況が悪化した場合、かかりつけ医と連携し、ご家族と話し合った上でできるだけご本人とご家族の要望に応えられるよう努力している。	「重度化した場合(看取り)における指針」について早期に本人、家族に説明し理解を得ている。協力医の確保や看護師の協力など看取り体制を進めており、看取り体験を学ぶなどターミナルケアに対する内部研修に力を入れている。	今後、加齢に伴い利用者の重度化が進むことも想定されることから、看取り体制を確立し、職員の死生観やターミナルケアに対するスキルの向上に一層努めることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護に24時間相談できる。管理者を中心に連携を取り、早急な対応ができるよう整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修や避難訓練を運営推進会議で見てもらい、近隣の方々への協力をお願いしている。	春秋に消防署立ち会いで火災避難訓練を行い、無駄な動きが多いなどの指摘を受けた。宿直職員の採用で、夜間の防災体制を強化することができ、仮設住宅や近くの社会福祉法人施設との連携を図りたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の観察、職員同士の情報交換により、個々にあった言葉かけや対応をしている。	職員自身が言われて嫌なことは言わない、を基本にし、呼びかけは「さんづけ」、トイレ誘導は「近くでやさしく小声で」行ない注意し合っている。役割など「できること」「したいこと」などを尊重しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望に耳を傾け、職員と共に考え自分のしたいことを表現してもらえよう努力している。 ご家族には、昔からの趣味や好きなことを聞いて情報をもらう様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のそれぞれのペースに合わせて本人ができるところまで見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を自己決定してもらったり、2ヶ月に1回床屋さんに訪問してもらい散髪できる。整髪料を希望される入居者には購入しに出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を刻んだり、茶碗を拭いたり、テーブルを片づけたりなど進んでお手伝いをしてもらっている。 畑でできた野菜をみんなで収穫し、食べることもある。	利用者のリクエストを受け、献立を作り、足りないものは一緒に買いにでかけている。畑に野菜を植え、収穫期には食卓を彩る。利用者は食事の下準備から後片付けやテーブル拭きまで行い、職員と一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者がいつでも水分確保ができるように、常にポットに麦茶を作りおいている。食事は毎日個々の摂取量を記録している。 糖尿病がある方には、カロリー制限があるため盛り付けを工夫し、ストレスにならない様に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前に口腔体操をしている。 歯ブラシは、義歯用と舌用も用意している。 また、週に1回は入居者の口腔チェックを行いみがき残しをきれいになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基にパターンを把握し、誘導や声かけを行い、自立に向けた支援を行っている。	オムツ使用の利用者はおらず、殆どの方が、自分でトイレに行っている。自立の人が多く、表情も明るい。退院後オムツからリハビリパンツに改善した人がある。夜間もポータブルトイレを使用しない生活となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況をチェックし、便秘時には運動や食事、水分補給で排便を促す努力をしている。 訪問看護にも協力してもらい、腹部マッサージもしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望(お湯の温度、一番風呂の好きな方など)を把握し、楽しく入浴できるよう支援している。時間帯も基本は午前だが、できるだけ希望に沿うようにしている。	清潔の保持のため、週3回午前中の中の入浴としてはいるが、利用者の希望により、毎日や時間帯変更、夜間での対応もあり、一番風呂の希望者もいる。職員と会話したり歌ったりして、ゆったりと楽しんで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室にベッドを設けており、好きな時間に休んで頂けるよう対応している。自分が使っていた布団を用意し、安心してもらえるよう配慮している。定期的にリネン交換を行い清潔保持に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、職員が管理しており、服用時にはご本人が飲み終えるまで見守っている。 ご本人の状態に合わせ、薬の形態も医師に相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食やカラオケ、釣りに出かけたりとホーム以外での気分転換も図っている。 また、野菜等を育て、収穫時期には収穫したものをいただいて楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する方は、職員付添いの元で買い物やドライブに出かけている。また、地域の花壇等も見学させていただいたり、花見や紅葉見学にも出かけている。	普段は、周辺の散策などで気分転換やストレス解消を図っている。利用者の希望によって、桜の花見や紅葉狩り、買い物などにも出かけている。家族の協力を得て、それぞれに外食や墓参り、自宅周辺へのドライブなどにも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお預かりしたお小遣いを使って買い物をしている。お金を所持したい方は、できるだけ希望に沿った形で所持して頂くように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話をしたいときには、ご家族の了解のもと電話をしている。ご家族には、毎月のご様子を手紙にて報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは、1日2回以上掃除をしている。ホール内には温度計・湿度計を設置し快適な温度を保つように気を付けている。 1月:みずき団子 3月:雛段 7月:七夕 12月:クリスマスツリー 季節感のある飾り付けを入居者と一緒に飾っている。	中央の大黒柱を中心にキッチン、ホール、和室があり、周りに居室がある。大きくしつらえた窓からは海が眺望できる。和室には寄贈されたひな人形が飾られ、季節感を出している。パネルヒーターで湿度調整も行き届き、快適で居心地の良いホールになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、こたつやソファがあり、足を伸ばしながら過ごすスペースがある。気の合った入居者同士で会話やおやつを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドとタンスがありご家族との写真やお土産などを飾っている。自宅で使用していた椅子や座布団などを持ってきてもらい工夫している。	部屋には、ベッド、整理ダンスが備え付けられている。持ち込み物は、最小限時計やカレンダー、家族の写真、着替え等である。出入り口には、名前や花写真付きの表札が掲げられ、安心感のある部屋を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者自身でできることは、見守り。介助が必要な場合には、ご本人にあったケアを提供できるよう心がけている。 自室には表札(顔写真つき)があり、自分の居場所として安心してもらっている。		